

1 2021年度設備投資実績

大手民鉄各社は、大都市圏での著しい混雑状況の緩和等を図るため、各社足並みを揃えて1961年度より1996年度まで8次36年にわたり「輸送力増強等投資計画」を策定し、着実に施設の整備を進めてきました。1997年度からは、混雑緩和に一定の成果がみられることや需要の動向、工事の進捗状況等を勘案し、単年度の「鉄道事業設備投資計画」として整備を進めています。

2021年度は、踏切および運転保安工事に2,133億円を投じて、車両の更新・改良や運転保安設備の整備、耐震補強工事のほか、線路の立体化による踏切道の整理などの工事を進め、安全性の向上に努めたほか、サービス改善工事には807億円を投じ、駅施設のリニューアル、エスカレーター・エレベーターの設置を含めたバリアフリー化、運行情報案内表示器の整備、ホームドアの設置などを進めました。また、輸送力増強工事には267億円を投じて、都心への乗り入れ工事や駅の改良、車両の新造・更新などを進めました。

2022年度設備投資計画では、踏切および運転保安工事に2,555億円、サービス改善工事に1,087億円、輸送力増強工事に467億円など、合計で4,124億円を投じる予定です。

■ 各社別設備投資2021年度実績

(単位:億円)

	東武	西武	京成	京王	小田急	東急	京急	東京メトロ	相鉄	名鉄	近鉄	南海	京阪	阪急	阪神	西鉄	合計	構成率
踏切および運転保安工事	164	172	117	125	138	287	87	502	69	93	93	72	35	103	42	34	2,133	66.2%
サービス改善工事	48	21	7	5	68	34	49	420	34	12	0	15	4	84	5	1	807	25.0%
輸送力増強工事	1	1	11	7	15	90	17	56	13	25		9		3	16	3	267	8.3%
鉄道・運輸機構工事																		
合計	214	195	135	138	223	413	155	978	117	132	93	97	40	191	64	39	3,224	100.0%

■ 各社別設備投資2022年度計画

(単位:億円)

	東武	西武	京成	京王	小田急	東急	京急	東京メトロ	相鉄	名鉄	近鉄	南海	京阪	阪急	阪神	西鉄	合計	構成率
踏切および運転保安工事	236	216	121	222	154	291	115	612	59	115	130	74	45	105	31	29	2,555	62.0%
サービス改善工事	85	29	26	39	94	77	80	434	37	10	58	22	17	63	11	5	1,087	26.4%
輸送力増強工事			18	26	14	75	34	121	66	55		10		16	27	5	467	11.3%
鉄道・運輸機構工事																		
合計	322	245	165	288	263	444	231	1,169	164	181	188	107	63	185	70	39	4,124	100.0%

※「合計」と各項目の合計値とは必ずしも一致しない。(億円未満切り捨て)

踏切および運転保安工事: 運転保安設備の整備、耐震補強、線路の立体化による踏切道の整理など。

サービス改善工事: バリアフリー化(エスカレーター・エレベーターの設置を含む)、駅施設のリニューアルなど。

輸送力増強工事: 都心への乗り入れ、駅の改良、車両の新造など。

鉄道・運輸機構工事: 鉄道・運輸機構が施行するニュータウンや都心乗り入れ等の新線建設及び複々線化工事をいい、完成後民鉄が買い取るもの。